ようこそ 東欧アニメの世界へ！

2度のアカデミー賞を獲得したアニメーション・スタジオ「セ・マ・フォル」の拠点、ポーランドの工業都市ウッチ。イジー・トゥルンカなど、人形アニメーションの伝統を誇るチェコの首都プラハと、カレル・ゼマンやヘルミーナ・ティールロヴァーが活躍した東部の都市ズリーン（旧ゴットヴァルドフ）。第二次世界大戦後に新聞漫画家や画家が集まってアニメーションを作り始めたクロアチアの首都ザグレブ。これら東欧の3カ国を採り上げ、それぞれの個性あるアニメーションの伝統を紹介するとともに、現代のアニメーション作品も展示します。

8　9　10

1. ルツィアン・デンビンスキ／マリアン・キュウバシュチャク監督／他『おやすみ、クマちゃん』（1975年以降）　2. ボジヴォイ・ゼマン／カレル・ゼマン監督『クリスマスの夢』（1945年）　3. 『アリのフェルダ』（1944年）を制作するヘルミーナ・ティールロヴァー　4./5. ボリス・コラール監督『ワン2（1964年）セル画　6. クシシトフ・ブジョゾフスキ監督／他『フラッパーと友達』（2013年）　7. デュシャン・ヴコティチ監督『エアザッツ（代用品）』（1961年）セル画　8. エドヴァルト・スチュルリス監督『ペレロフォン』（1959年）　9. カレル・ゼマン監督『悪魔の発明』（1958年）　10. ズラトコ・グルギッチ監督／他『バルタザール教授』（1967年以降）セル画　2./3. provided by National Film Archive

関連プログラム

●オープニング記念講演会
日時：9月27日（土）午後1時30分〜2時30分
場所：神奈川県立近代美術館 葉山　講堂
講師：バウリナ・グラ（セ・マ・フォル　プロジェクト・マネージャー）
申込不要、無料

●記念シンポジウム「東欧アニメをめぐる旅」
日時：2015年1月12日（月・祝）午後2時〜4時
会場：神奈川県立近代美術館 葉山　講堂
トーク「東欧アニメへの誘い」水沢勉（当館館長）
パネラー：ヴィトルト・ギェルシュ（アニメーション作家）
　　越村勲（東京造形大学教授）
　　柴田勢津子（株式会社イデップ）
司会：栩山昌夫（当館主任学芸員）
申込不要、無料

●東欧アニメーション上映会
※詳細はホームページをご覧ください。

●ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日（今回は10月5日、11月2日、12月7日、1月4日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。
●無料開館日：11月3日（月・祝）「文化の日」は、神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご観覧いただけます。

●県立機関活用講座「アニメの楽しさ・豊かさ」全5回
時間：いずれも午後2時〜午後4時
場所：神奈川県立近代美術館 葉山　講堂
定員：各回70名（申込先着順受付）
受講料：各回1,000円（任意の回数で申込可）
①10月18日（土）
講師：ジャン・ガスパール・パーレニーチェク（パリ・チェコセンター副館長）
　　ヴァーツラフ・トロヤン（作曲家）
②11月1日（土）
講師：村田朋泰（アニメーション作家）
③11月15日（土）
講師：峰岸裕和（ストップモーション・アニメーター）
④12月6日（土）
講師：越村勲（東京造形大学教授）
⑤12月20日（土）
講師：板橋晴子（ハンガリー・アニメーション研究者、イラストレーター〈なばちか はるこ〉）
※詳細はホームページをご覧ください。

●学芸員によるギャラリートーク
日程：10月13日（月・祝）、11月22日（土）、12月21日（日）
時間：午後2時〜2時30分
申込不要、無料（ただし「東欧アニメをめぐる旅」展の当日観覧券が必要です）

※日程および講演者等は諸事情により変更となる場合があります。

同時開催

神奈川県立近代美術館　鎌倉
「コレクションの対話　近代美術の傑作」
10月11日（土）ー2015年1月12日（月・祝）

神奈川県立近代美術館　鎌倉別館
「美術と文学の交流　麻生三郎の装幀・挿画展」
9月27日（土）ー2015年1月12日（月・祝）

優待のご案内

「東欧アニメをめぐる旅」展の有料観覧券（65歳以上券、高校生券を除く）の半券を提示されると、同展会期中に限り、下記の施設に優待料金でご入場いただけます。
●神奈川県立近代美術館 鎌倉　Tel.0467-22-5000
●葉山しおさい公園　Tel.046-876-1140
●山口蓬春記念館　Tel.046-875-6094

交通案内

●公共交通機関：JR横須賀線「逗子」駅前（3番のりば）または京浜急行「新逗子」駅前（南口2番のりば）から京浜急行バス「逗11,12系統（海岸回り）」に乗車、「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」で下車（所要約15分）。

●車：横浜横須賀道路、逗子インターチェンジから逗葉新道経由（7.6km）、または横須賀インターチェンジから県道27号横須賀葉山線経由（7.2km）。

【葉山館駐車場のご案内】
営業時間：午前8時30分〜午後6時（入庫は午後5時30分まで）
駐車料金：1時間普通車400円、大型車1,200円／追加は30分毎に精算
●観覧券をお持ちの方は1時間無料となります。
●レストランやショップで2,000円以上ご利用頂いた方は、1時間無料となります。
●貸切バス等（定員11名以上）でご来館の場合、駐車場の予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。団体名、連絡先、来館日時、台数をご連絡ください。
Tel.046-875-2800

The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館
神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
Tel.046-875-2800　http://www.moma.pref.kanagawa.jp

主催：神奈川県立近代美術館
協力：ポーランド映画製作者協会、ポーランド・アニメーション・プロデューサー協会、セ・マ・フォル、チェコ国立映画アーカイブ、バランドフ映画撮影所、カレル・ゼマン・ミュージアム、ザグレブ・フィルム
後援：駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター、駐日チェコ共和国大使館、チェコセンター、駐日クロアチア共和国大使館　企画協力：株式会社イデップ　助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団

東欧アニメをめぐる旅

ポーランド・チェコ・クロアチア

Animation from East Europe: Creators in Poland, Czech, and Croatia

2014年9月27日（土）ー2015年1月12日（月・祝）

1

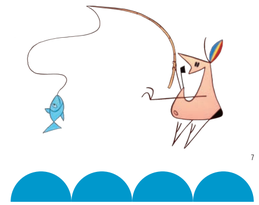
2

3

4

5

6



7

神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama
The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1　Tel.046-875-2800
2208-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa 240-0111　http://www.moma.pref.kanagawa.jp

開館時間：午前9時30分ー午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日（10月13日、11月3日、11月24日、1月12日は開館）、12月29日（月）ー1月3日（土）
観覧料：一般1,000［900］円／20歳未満・学生850［750］円／65歳以上500円／高校生100円
［ ］内は20名以上の団体料金です。中学生以下および障害者手帳をお持ちの方は無料です。
その他の割引につきましてはお問い合わせください。

1

2

3

4

1. マレク・スクロベツキ監督『ダニー・ボーイ』(2010年)
2. マレク・スクロベツキ監督『イクトゥス(魚)』(2005年)
3. クシシュトフ・プショゾフスキ監督／他『フラッパーと友達』(2013年)
4. スージー・テンプルトル監督『ピーターと狼』(2006年)

ウッチ

ポーランド共和国
Republic of Poland

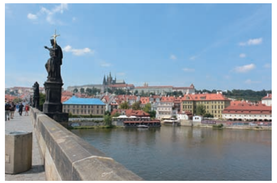
セ・マ・フォルは、ポーランド中央部、かつて繊維工業の中心地として知られ、今なお石畳とレンガの街並を残すウッチに1947年に設立されたヨーロッパで最も歴史のあるアニメーション・スタジオのひとつです。人形によるストップモーション・アニメーション制作を得意とし、これまでに850本を超える作品を生み出しました。ズビグニュー・リプチンスキー(1949-)監督の『タンゴ』(1980年)とスージー・テンプルトン(1967-)監督の『ピーターと狼』(2006年)により、アカデミー賞短編アニメーション部門で2度の栄冠を得ています。近年は、自主企画のみならず欧米や日本を含む海外のアニメーションの製作にも活動の幅を広げています。

その他、マレク・スクロベツキ(1951-)監督の『ダニー・ボーイ』(2010年)、クシシュトフ・プショゾフスキ(1956-)などが監督した子ども向けアニメーション『フラッパーと友達』(2013年)などの現代作品を通して、ポーランドの誇る人形アニメーションの豊かな表現を紹介します。

チェコ共和国
Czech Republic

チェコのアニメーション草創期に広告アニメーションから実験的なアニメーションまで幅広く制作したカレル・ドダル(1900-1986)。かつてドダルの創作と私生活のパートナーであり、後に、ズリーン(旧ゴットヴァルドフ)で『アリのフェルダ』(1942年)など人形アニメーションを撮ったヘルミーナ・ティールロヴァー(1900-1993)。焼失したティールロヴァーの作品をヒントにズリーンで『クリスマスの夢』(1945年)を撮り、後に『悪魔の発明』(1958年)などコマ撮りと実写を組み合わせたSF長編映画で一世を風靡したカレル・ゼマン(1911-1989)。戦前から挿絵や人形劇で活躍し、戦後まもなくアトリエ・フィルム・トリクでアニメーション映画を手掛け、『チェコの四季』(1947年)を始めとする人形アニメーションで国際的に高く評価されたイジー・トゥルンカ(1912-1969)。シュルレアリスムの表現としてのクレイ・アニメーションによって独自の世界観を築いたヤン・シュヴァンクマイエル(1934-)。

チェコのアニメーションに国際的に高い評価を与えてきた、これらの魅力的な個性に加えて、現代チェコを代表するアニメーション作家、ミハエラ・パヴラートヴァー(1961-)の『レペテ(反復)』(1995年)を紹介します。


プラハ

1

2

3

4

5

1. カレル・ゼマン監督『盗まれた飛行船』(1966年)衣装
2. イジー・トゥルンカ監督『善良な兵士シュヴェイク』(1955年)
3. ヘルミーナ・ティールロヴァー監督『アリのフェルダ』(1944年)
4. カレル・ゼマン監督『ホンジーク とマジェンカ』(1980年)原画
5. ミハエラ・パヴラートヴァー監督『レペテ(反復)』(1995年)原画

1.provided by Barrandov Studios, COSTUMES AND PROPS
2.／3.provided by National Film Archive

クロアチア共和国
Republic of Croatia

ザグレブ

1956年にアニメーション・スタジオを設立したザグレブ・フィルム。そのグラフィック表現が特徴的な作品群から、アカデミー賞短編アニメーション部門で海外作品として初めて受賞したデュシャン・ヴコティチ(1927-1998)監督の『エアザッツ(代用品)』(1961年)、ボリス・コラール(1933-)監督のシンプルに描かれた犬と猫の親子が可愛らしい『ワン・ワン』(1964年)と戦争の影に怯えて軍拡に進む国家を風刺した『ブーメラン』(1962年)、ズラトコ・ボウレク(1929-)監督がイタリアと合作した『猫』(1971年)、ネデリコ・ドラギッチ(1936-)監督の『トン・トン』(1972年)、ヴラディミル・コトリシャ(1923-1984)とアレクサンダル・マルクス(1922-2002)の共同監督による『悪夢』(1976年)、クレシミル・ズィモニッチ(1956-)監督の『蝶々』(1988年)などを紹介します。

とりわけ、『ブーメラン』のストーリーボード約190点とセル画約50点は、この展覧会のための日本側の調査で、ザグレブ・フィルムの倉庫から文字通り発掘されたものです。

1

2

3

4

1. ネデリコ・ドラギッチ監督『トン・トン』(1972年)セル画
2. クレシミル・ズィモニッチ監督『蝶々』(1988年)背景画
3. ズラトコ・ボウレク監督『猫』(1971年)セル画
4. クレシミル・ズィモニッチ監督『アルバム』(1983年)セル画(部分)
5. ボリス・コラール監督『ブーメラン』(1962年)セル画

5